

疫学情報 2020年2月4日分

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/ka/corona-virus/2019-ncov/9324-2019-ncov.html>

国立感染症研究所 バイオリスク管理委員会

2020年1月30日

## 国立感染症研究所内での新型コロナウイルス 2019-nCoV（仮名）取り扱いについて

以下のような所内ルールが取り決められましたのでお知らせします。

所内のバイオリスク管理委員会で議論した結果、当該ウイルスの所内での取り扱いについて以下の2点が決定された。

1. 新型コロナウイルス 2019-nCoV の病原体の扱いは、BSL3/ABSL3 扱いとする。
2. 新型コロナウイルス 2019-nCoV 感染疑い患者由来の臨床検体は BSL2 扱いとする。

なお、本ウイルスは、病原性や伝搬性等で知見が蓄積中であり、本取り決めは暫定的な取り決めとする。また、新規ウイルスで知見が蓄積していないことを考慮し、曝露リスクを低減する追加対応をする。

<https://www.niid.go.jp/niid/images/epi/corona/nCoV-5-200131.pdf> 2020年1月31日

国立感染症研究所・国立国際医療研究センター国際感染症センター

## 新型コロナウイルス感染症の現状の評価と国内のサーベイランス、医療体制整備 について

### ■ 現状の評価

省略します。

### ■ 国内対応

武漢市以外からも確定例が持続的に報告される中、現時点で感染様式が特定されておらず、軽症例によって国内に新型コロナウイルスが持ち込まれることは当然想定しておかなければならない。ただし、軽症例を含め、すべての新型コロナウイルス感染症を検疫所や国内医療機関で探知しようとすることは、検査前確率が十分に高い確証が得られない現状においては、現実的ではない。咳エチケットや手指衛生など、基本的な感染対策が重要である。

現時点では重症リスク要因が特定されていないことから、最重要で対応をすべきは、国内における肺炎など中等症以上の新型コロナウイルス感染症の探知である。また、特異的な治療に関する知見に乏しいことから、諸外国における治療に関する情報の収集と共に、国内でも知見を蓄積していく必要がある。

・ **症例探知の仕組み**：国内における新型コロナウイルス感染症の探知様式は、今のところ、以下の3システムを準備している。以下の1)によって、武漢市関連の中等症以上の新型コロナウイルス感染症を探知することを企図している。

1) 武漢渡航歴があり、肺炎症状をもつ症例の場合は、疑似症サーベイランスの枠組みで新型コロナウイルス遺伝子検査ができる仕組みを整えた（「新型コロナウイルス感染症に対する対応と院内感染対策（1月21日改訂版）」）

2) 「新型コロナウイルス（Novel Coronavirus：nCoV）感染症患者に対する積極的疫学調査実施要領（暫定版）（1月28日版）」を整備し、新型コロナウイルス感染症の確定例の濃厚接触者の発症時、感染症法15条の枠組みで、新型コロナウイルス遺伝子検査ができる仕組みを整えた。

3) 疑似症サーベイランスにおいては武漢市渡航歴の有無に関わらず、原因不明重症感染症を探知し、必要な公衆衛生対応（新型コロナウイルスの検査を含む）をとることが可能である。

・ **検査体制**：中国から開示されたゲノム情報に基づき、感染研においてコンベンショナル PCR 検査を実施する準備を整え、検査に対応した。また、地方衛生研究所において、コンベンショナル PCR 検査が可能となるよう、1月23日に国立感染症研究所から試薬が配布された。1月24日に、国立感染症研究所にて開発を進めていたリアルタイム PCR 法による検査系が完成し、所内で実施する検査はリアルタイム PCR 法に変更された。また、それに合わせて1月30～31日に地方衛生研究所、検疫所へリアルタイム PCR 用の試薬を配布された。上記の症例探知の仕組み1) 2)によって行政検査を実施する場合の検体採取と輸送の手引きは1月21日に国立感染症研究所のウェブサイト上で公開された。検体採取と輸送の手引きは適宜アップデートされており、最新版は1月24日版となる。

・ **新型コロナウイルス感染症(疑い含む)の軽症例や無症状病原体保有者への対応**：武漢市などの流行地への渡航歴があり、入院の適応にならない程度の症状を呈する者については、自宅で待機の上、適切に感染防止策をとること、また、適切に症状を保健所がモニタリングし、悪化時には、上記の症例探知の仕組み1)で対応することも検討する（「新型コロナウイルス感染症に対する対応と院内感染対策（1

月 21 日改訂版)」、「新型コロナウイルス(Novel Coronavirus : nCoV)の患者の退院及び退院後の経過観察に関する方針 (案)」参照。

## ■ 今後必要な対応

- ・ **新型コロナウイルス感染症の治療指針**：国内では、新型コロナウイルス感染症の重症患者をできるだけ早く探知し、適切に治療ができる準備をしておく必要がある。知見を集積し、感染症専門医、集中治療医等の適切なメンバーで治療指針を作成する必要がある。
- ・ 今後の疫学情報についての新たな知見に応じ、症例定義は適宜変更を検討する。なお、症例定義の変更があった場合には、この文書内容も適宜更新していく。
- ・ **感染管理**：院内感染についての新たな知見に応じ、必要な文書を作成する。日本感染環境学会の新型コロナウイルス感染症対応 9)も参考にされたい。
- ・ 市中の集団発生への対応：軽症例による新型コロナウイルスの国内への持ち込みにより、市中において、新型コロナウイルスの集団発生が発生することも想定し、その対応について検討しておく必要がある。
- ・ **医療機関における集団発生への対応**：探知できていない新型コロナウイルス感染症を発端に、同感染症が医療機関内で集団発生することも想定し、その対応について検討しておく必要がある。
- ・ **検査体制**：今後、地方衛生研究所における検査件数が増える予想され、地方衛生研究所における検査精度の確保が重要となる。また、現在は検査に適した検体についての情報が乏しく、検体採取の手引きにおいては多種類の検体を採取することを推奨しているが、今後、検査件数が増えるに従って、検査検体の取り扱いが変更されることが考えられる。状況に応じて、「2019-nCoV(新型コロナウイルス)感染を疑う患者の検体採取・輸送マニュアル (1月24日)」を更新する。

[https://www.bousai.metro.tokyo.lg.jp/res/projects/default\\_project/page/001/007/287/2020020304.pdf](https://www.bousai.metro.tokyo.lg.jp/res/projects/default_project/page/001/007/287/2020020304.pdf)

令和 2 年 2 月 3 日 東京都福祉保健局

## 東京都 新型コロナウイルス感染症対策・今後の対応

### 1 相談体制の拡充

#### ○ 「帰国者・接触者 電話 相談センター (※)」の新規開設

- ・ 疑い例を「帰国者・接触者外来」に確実につなげるため、「帰国者・接触者 電話相談センター」を新たに開設都及び保健所設置自治体 (特別区、八王子市、町田市) で共同運営 今週末を目途に開設

### 2 医療体制の整備

#### ○ 「帰国者・接触者外来 (※)」の新規開設

- ・ 疑い例の 診療 を担う 「帰国者・接触者外来」を二次医療圏に 1 か所以上確保感染症診療協力医療機関 (非公表 に開設 今週末を目途に開設

### 3 検査体制の強化

#### ○ 健康安全研究センターの新型コロナウイルス検査枠を拡大

- ・ 1 日あたり現行の 10 件から最大 30 件 に拡大

### 4 都民への情報提供の充実

#### ○ 新設・ 拡充する相談体制の 周知

#### ○ ホームページによる情報提供の充実

- ・ 予防策や、 発生時の 家庭や職場での 対応 などを、最新の知見に基づき提供
- ・ 相談窓口 の 相談対応 の蓄積 を生かし、 Q&A を充実

### 5 関係機関の対応力 向上

#### ○ 医療機関への支援

- ・ 医療機関専用ホームページで、各種通知や知見を随時提供
- ・ 「帰国者・接触者外来」設置医療機関や感染症指定医療機関等に、 防護服 を提供

#### ○ 保健所への支援

- ・ 保健所の積極的疫学調査の円滑な実施のため、必要に応じて、技術的支援、 防護服を提供

[https://medical.nikkeibp.co.jp/leaf/mem/pub/report/t344/202002/564123.html?n\\_cid=nbpnmo\\_mled.html-new-arrivals](https://medical.nikkeibp.co.jp/leaf/mem/pub/report/t344/202002/564123.html?n_cid=nbpnmo_mled.html-new-arrivals) 日経メディカル 2020/02/03

#### 感染研、同研究所が開発した細胞で新型コロナウイルスを単離（感染細胞の変性、多核巨細胞像確認）

国立感染症研究所は、2019年1月31日、新型コロナウイルス（2019-nCoV）の単離・培養に成功したと発表した。今後、単離されたウイルスは国内外へ配布され、ウイルス研究のほか、抗体検査や抗ウイルス薬、ワクチンの開発に用いられる予定。

今回、国立感染症研究所ウイルス第三部は、VeroE6/TMPRSS2細胞を用いて、国内で採取された臨床検体から新型コロナウイルスの単離・培養に成功した。VeroE6/TMPRSS2細胞は、TMPRSS2（transmembrane protease, serine 2）遺伝子が恒常的に発現しているアフリカミドリザル腎細胞亜株（VeroE6細胞）であり、同研究所が開発したもの。

同研究所によれば、単離された新型コロナウイルスを電子顕微鏡で観察したところ、粒状の粒子の周囲をコロナウイルス特有の冠状のスパイク（S）蛋白が囲んでいる様子を確認。また、VeroE6/TMPRSS2細胞に、新型コロナウイルスへの感染が確認されている臨床検体を接種したところ、VeroE6/TMPRSS2細胞が変性し、多数の核が集積した様子（多核巨細胞像）が認められたという。

また、VeroE6/TMPRSS2細胞で新型コロナウイルスを培養し、その細胞上清中からウイルスのゲノムを抽出し、ほぼ全長のウイルスゲノム配列（約30kbのRNA配列）を同定した。その結果、中国湖北省武漢で解析された新型コロナウイルス（Wuhan-Hu-1株）と、99.9%の相同性が認められたという。

国立感染症研究所は今後、単離したウイルスや細胞を国内外に配布する予定。同ウイルスを用いて、ウイルスの感染機構、病原性の解析、抗体検査の開発、抗ウイルス薬のスクリーニング、ワクチンの開発などが進むと期待される。

[https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage\\_09290.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_09290.html)

#### 新型コロナウイルス感染症の現在の状況と厚生労働省の対応について（令和2年2月3日版）

令和2年2月03日（月）【照会先】健康局 結核感染症課

現時点（2月3日12時現在）までに疑似症サーベイランスおよび積極的疫学調査に基づき、計102件の検査を実施。そのうち12例が陽性。90例が陰性。

<https://www.niid.go.jp/niid/images/meeting/shimin/seminar200314.pdf>

#### 感染研市民セミナー（第48回）

「くらしに役立つ病気の知識」 麻しん・風しん・おたふくかぜ

お問い合わせ

東京都武蔵村山市学園4丁目7番1号

国立感染症研究所村山庁舎

TEL: 042-561-0771

FAX: 042-565-3315

国立感染症研究所（村山庁舎）では、毎日を健康に明るく過ごすための情報を、分かりやすく提供する市民公開セミナー「くらしに役立つ病気の知識」をシリーズで開催しています。

今回のテーマは「麻しん・風しん・おたふくかぜ」です。よく耳にする病気ですが、どのくらい怖い病気か、そしてワクチンについて詳しくご存知ですか？世界の状況や日本の状況などについても、できるだけ分かりやすくお伝えしたいと思います。

皆さま、お誘い合わせの上、お気軽にご参加ください。

講師：竹田誠（ウイルス第三部長）（質問コーナーもあります。）

日時：令和2年3月14日（土） 10：00～11：15（受付は9時半より）

場所：国立感染症研究所村山庁舎

参加費：無料（申し込み不要）